

中国語「NP₁的NP₂」の構文、語義の分析

楊 曉 安

中国語の“名詞句+的+名詞句”(以下“NP₁的NP₂”と略記する)は日本語の「NP₁のNP₂」と同じく、構文上から見るとNP₂が中心語、NP₁が修飾語としての名詞句を構成する。その仕組みは単純に見えるが、NP₁とNP₂との間にある関係は相当複雑であり、常に多種多様な解釈が成立しうる。例えば、“小王的衣服(王さんの服)”は異なる文脈において、少なくとも以下のような理解が成立しうる：

小王所有的衣服(王さんの所有する服)

小王买的衣服(王さんが買った服)

小王卖的衣服(王さんが売った服)

小王设计的衣服(王さんがデザインした服)

小王做的衣服(王さんが作った服)

小王穿的衣服(王さんが着る服)

送给小王的衣服(王さんに送る服)etc

我々は他にも多くの異なる意味を示す例を挙げることができる。言うまでもなく、“小王的衣服(王さんの服)”は解釈が分岐する句ではあるが、この非常に多くの意味の有り様は語義の深い面から見ると、一つの共通点がある、すなわちどの理解も全て「王さんと服には何かしらの関係がある」という範疇からの逸脱はないということである。以上から、中国語の“NP₁的NP₂”に存するこのような解釈の分岐に対して言語を用いて処理を行うだけでは明らかに不十分であり、その解釈分岐の原因を探求し、また必ず構文と語義分析というフィルターに通す必要がある。本文は構文・語義の角度から中国語の“NP₁的NP₂”のような解釈分岐の仕組みを分析しようと試みるものである。

一．構文関係

(一) 主語関係・目的語関係

まず下の例を見てもらいたい：

(1) 大江的照片(大江の写真)

西山佑司氏(1993)は日本語の「NP₁のNP₂」には様々な構文関係があると分析しました¹⁾。中国語の“NP₁的NP₂”にも日本語の「NP₁のNP₂」と同じように、色々な構文関係

がある。この「NP₁的 NP₂」句は三つの意味を包含する：(a) 大江が所有する写真；(b) 大江が撮影した写真；(c) 誰かが撮影した大江の写真。この中で (a) の意味は比較的わかりやすく、この種の構成の典型的な意味であるが、(b) と (c) は直接語義を限定する時に加えられる動詞「撮影する」と関係があると共に、実際深い面においては NP₁ と「撮影する」の間に異なる構文関係を表現している。(b) 中の「大江」は「撮影する」の主語であり、両句は主述の関係にある。そして (c) 中の「大江」は「撮影する」の目的語であり、両句は述目の関係となり、二種類の異なる構文関係は表面上異なる構成内容を作り上げる。

同様の情況は他に“老师的画(先生の絵)”、“张大千的剧本(張大千の脚本)”などがあり、例(1)と同じく、共に三つの意味を有し、そこに内在する動詞「描く」、「書く」と NP₁ が主述・述目二種類の関係があってはじめて、“老师画的画/画老师的画(先生が描いた絵/先生を描いた絵)”と“张大千写的剧本/写张大千的剧本(張大千が書いた脚本/張大千を書いた脚本)”という二種類の意味を持つようになる。以上の例中の NP₂ は全て名詞である。

続いて下の例を見てもらいたい：

(2) 学生的调查(学生の調査)

(3) 父母的教育(親の教育)

この二つの句も日本語の「NP₁の NP₂」と一致する解釈が分かれる。例(2)は「学生が調査する」と「学生を調査する」二つの意味を有し、例(3)は「親が教育する」と「親を教育する」二つの意味を有する。この二種類の意味の発生は構文の角度から見ると、NP₁ と動詞が主述あるいは述目の関係にあることに起因し、例(1)との相違は動詞が内在的ではなく、外在的で、NP₂ により生じる点にある。この二つの句と例(1)は異なり、共に (a) の意味がない。その原因は NP₂ が兼類語であり、それは同時に動詞と名詞二種類の語の性質を有するからである。たとえ句中の NP₂ が名詞として用いられたとしても(動名詞と称する者もいる) その語義の中に依然として動詞の特性を有しているため、(a) の意味を有することが不可能なのである。

当然、多くの「NP₁的 NP₂」句に解釈の分岐があるとは限らない。例えば：

(4) 老师的授课(先生の授業)

(5) 学生的留学(学生の留学)

上の句中の NP₂ “授课(授業)”、“留学”と NP₁ は主述の関係があるのみで、事実上、このような動詞は全て他動詞に掛からないため、NP₁ がそれらの目的語となることは不可能であり、その句もまた解釈の分岐は有りえないのである。

同様に、下の句もまた複数の意味は存在しない：

(6) 软件的设计(ソフトのデザイン)、会场的布置(会場の装飾)

房间的打扫(部屋の掃除)、葡萄酒的品尝(ワインの吟味)

协议的签订（協議の締結）

この中でNP₂の位置を占める動詞“设计（デザイン）”、“布置（装飾）”、“打扫（掃除）”、“品尝（吟味）”、“签订（締結）”などは対応するNP₁との間に述目の関係を構成しうるので、主述の関係を構成しえないため、解釈の分岐は有りえないのである。

中国語の中には、例（7）のように、NP₁と動詞（NP₂）が主述の関係である時、“的”は省略できず、もし述目の関係であれば、“的”が省略できる場合がある。これは中国語のSVO型言語に起因する。

（7）a 我们的计划 我们计划（私たちの計画 私たちが計画する）

b 留学的计划 = 留学计划（留学の計画 = 留学する計画）

もし主語と目的語を全て句の中に入れた場合、以下の三種類の形式がある、

（8）a 我们的留学的计划（私たちの留学の計画）

b 我们留学的计划（私たちが留学する計画）

c 我们的留学计划（私たちの留学する計画）

この中で、（8）aが冗長なのは明らかであり、普通は言わない。（8）bは語義が同じではあるが、構文に若干の変化がある。（8）cが最も普通の形式である。

（二）目的語関係・修飾語関係

下の例を見てもらいたい：

（9）法国文学的研究者（フランス文学の研究者）

（10）光头的研究者（はげ頭の研究）

明らかに例（9）は一義的であるが、例（10）は多義的である。NP₂“研究者”に対して言うと、“法国文学（フランス文学）”と“光头（はげ頭）”は共に意味上の主語と見なすことはできないが、二つの語句の間には大きな相違がある。例（9）における「フランス文学」は「研究」の意味上の目的語である。もし我々が「何某はフランス文学の研究者である」と言えば、主語「何某」は「研究者」の単一の属性を持つのみで、単に彼の研究対象が「フランス文学」であるに過ぎない。しかし例（10）の中で、「はげ頭」は「研究者」の意味上の目的語と見なしうるばかりか、同時に「研究者」という中心語に付け加える部分とも見なしえ、修飾語を構成する。この時NP₁はある意味きわめて非制限的な要素である。主語「何某」は二重の属性を備え、彼は「はげ頭」でもあれば、「研究者」でもある。

当然、NP₁は場合によっては内在する動詞の目的語でありうるし、NP₂の修飾語でもありうる。例えば：

（11）肥胖的专家（肥満の専門家）

この句も解釈の分岐がある、句中のNP₁が内在する動詞「研究する」の目的語と見なしうる時、“研究肥胖的专家（肥満を研究する専門家）”の意味となる。またNP₂の修飾語と見なしうる時は、“专家肥胖（専門家は肥満だ）”の意味となる。他に、下の句も同様の情況

に属する,

(12) 这个村子的医生 (この村の医者)

(13) 这个胡同的警察 (この路地の警察)

(12) は「この村の人々を診てくれる医者」と理解しうるし、「この村に住む医者」とも理解しうる。(13) も「この路地を管轄する警察」と「この路地に住む警察」という二つの意味を有する。前者の意味として理解する時、NP₁ は意味上の目的語であり、後者の意味として理解する時には、NP₁ は NP₂ の修飾語である。

(三) 並列関係・修飾語関係

下の例を見てもらいたい:

(14) 人大代表的儿子 (議会代表の息子)

(15) 大学老师的恋人 (大学先生の恋人)

この二つの句とも明らかに解釈が分かれ、構文上から見ると、NP₁ と NP₂ は並列関係もしくは限定修飾語の関係という二種類の解釈が可能な存在である。NP₁ が NP₂ と並列関係に立つ時、両句は同一対象の二重属性を示唆する。「議会代表」である以上、何某の「息子」でもあり、「大学先生」である以上、何某の「恋人」でもある。限定修飾語の関係に立つ時、NP₂ は単一の属性、すなわち「息子」と「恋人」を有するのみで、NP₁ 「議会代表」と「大学先生」は彼らと直接の関係になく、彼らの「親」や「恋人」の職業や身分を示すに過ぎないのである。

二．語義関係

以上の分析を通じて、我々は中国語“NP₁ 的 NP₂” 構文の関係が比較的複雑であることを見出すことができる。表面上は単純に見える修飾と限定の関係も、その内面では主述・述目・修飾被修飾・並列など多様な構文関係を包含している。これらの複雑な構文関係の存在は、“NP₁ 的 NP₂” 中に大量の多義的な仕組みを存在せしめ、非常に多くの解釈分岐を成立させている。

しかし、単に構文上から分析するだけでは明らかに不十分であり、我々は語義の面にも立ち入り、この種類の句の仕組みが解釈を分ける原因を詳細に分析する必要がある。

(一) 有標・無標

下の表を見てもらいたい:

A類	B類
作家: 儿童文学的作家	作者: 《雷雨》的作者
(作家: 儿童文学的作家)	(作者: 『雷雨』的作者)

律师：国会议员的律师

辩护人：国会议员的辩护人

(弁護士：国會議員の弁護士)

(弁護人：国會議員の弁護人)

医生：肿瘤医院的医生

主治医：三号病床的主治医

(医者：腫瘍病院の医者)

(主治医：三番ベッドの主治医)

一見すると、AB 両者の NP₂ には何も差がなさそうであるが、その実それらの NP₂ は語義の構成上非常に大きな相違がある。A 類の「作家」₁、「弁護士」₁、「医者」₁ は職業を示す標識であり、独立の外延を備える。言い換えると、何某が「作家」₁、「弁護士」₁、「医者」₁ であるか否かを言えるという類の判断を完全に下しうる場合、それら NP₂ が NP₁ の語義の部分を放棄してもななら問題はなく、表中の NP₁ 「児童文学」₁、「国會議員」₁、「腫瘍病院」₁ はその外延の作用を限定する機能を果たすに過ぎない。しかし「作者」₁、「辩护人」₁、「主治医」₁ はこの通りではなく、もし NP₁ の部分がなければ、NP₂ は成立しえない。これは言い換えると「『雷雨』」₁、「国會議員」₁、「三番ベッド」₁ などの限定がない状況では、何某に「作者」₁、「辩护人」₁、「主治医」₁ であるか否かを問う術がないということである。あるいはこの類の問いがななら意味を持たないとも言える。西山佑司氏 (1993) は以上の AB 二種類の名詞を「飽和名詞句・非飽和名詞句」と名付けましたが、我々は中国語では「有標名詞・無標名詞」と言ったほうが簡単で分かりやすいと思い、A 類の名詞を「有標名詞」₁、B 類の名詞を「無標名詞」と呼ぶことにする。

このような「有標/無標」の語句はとても多い。例えば“老师/班主任(先生/学級担任)”、“作曲家/曲作者(作曲家/曲の作者)”、“剧作家/剧作者(剧作家/劇の作者)”、“摄影师/摄影助理(カメラマン/撮影の助手)”、“导演/编导(演出家/演出)”、“驾驶员/副驾驶(操縦士/副操縦士)”などはどれもこれに類する状況である。有標名詞はその他の部分を補充する必要なしに完全な意味を表現し、かつ文中において判断可能であり、それらの意味は相対的に確定する。しかし無標名詞そのものは完全な意味の判断を与えることはできない、その原因は無標名詞が完全かつ適切な意味を内包しておらず、その他の修飾部分の限定を通じて初めて適切な意味を指し示すことができるという点にある。したがって“父亲(父) 母亲(母) 哥哥(兄) 姐姐(姉) 儿子(息子) 女儿(娘)”などの親族名詞、“总统(大統領) 总理(首相) 部长(部長) 市长(市長) 局长(局長)”などの官職名詞などはその大多数が無標名詞に属する状況にある。

しかし、言語中の名詞に有標・無標の区別をする場合は必ずしも単純にいくとは限らない、多くの語句は文脈の制限に異なる特徴を持つからである。実は有標と無標両方の特性を兼ね備えている語句もある：有標にも無標にも成りうるのである；有標の場合もあれば、無標の場合もある。例えば、“他爷爷是市长(彼の祖父は市長だ)”の“市長”は有標名詞のみであるが、“他是大阪市的市长(彼は大阪市の市長だ)”の“市長”は無標名詞である。同様に、“我是儿子,她是女儿(私は息子で、彼女は娘だ)”の「息子」と「娘」は有標名詞と見なすべきであるが、“他是张教授的儿子,她是王局长的女儿(彼は張教授の息子で、

彼女は王局長の娘だ)”の「息子」と「娘」は明らかに無標名詞となる。まさしくこれらの語句が有標と無標両方の特性を兼ねるが故に、いくつかの構成の中における表現が多義的な解釈を発生させる。例えば、

(16) 博物館馆长的父亲(博物館館長の父)

(17) 二十年前的丈夫(二十年前の夫)

この二つの構成は共に多義的であり、その原因を我々は「有標・無標」の語義の角度から解釈を作り出すという点に求めることもできる。

(16)は(a)“父亲是博物馆馆长(父は博物館館長である)”と(b)“儿子是博物馆馆长(息子は博物館館長である)”二つの意味を有する。我々が(a)と理解する場合、構文上から見ると、この場合の「父」は有標名詞として文中に介入し、修飾部分の影響を受けず、語義は相対的に固定化する。我々が(b)と理解する場合、構文上から見ると、この場合の「博物館館長」は「父」の外延を制限し、修飾関係を構成するに至る。語義上から見ると、この場合の「父」は無標名詞として文中に介入し、それは修飾部分の影響を受け、「博物館館長」を以って意味を獲得する前提と成しているのである。

(17)も同様に、(a)の意味としては「二十年前に自分と婚姻関係にあったある男性」を指し示す、現在はすでに婚姻関係がなく、この男性は過去の「夫」として話題に上っているに過ぎない。(b)の意味は「二十年前の夫」になり、この人物は現在(あるいは依然として)自分の夫であり、単に彼の二十年前の往時に話が及んだに過ぎない。一つの構文形式は二つの語義内容を包含する、それは「夫」という語に対する有標と無標両方の解釈が存在するからである。「夫」を有標名詞として見なす場合は(a)の意味を獲得し、無標名詞として見なす場合は(b)の意味を獲得するのである。

(二) 語義指向

語義の平面上から“NP₁的NP₂”の解釈分岐の仕組みを分析する場合、NP₂が無標であるか有標であるかという分析の他に、我々は語義指向による分析法を用いて句の構成内部に潜む語義関係を分析することができる。

語義指向とは言わば文中のある一成分(外・内在を問わず)と語義上のどの成分が直接関係するのかを指向するものである。文中のある一成分の語義指向を通じて、ある種の言語現象を揭示し、説明し、解釈する、このような分析方法を語義指向による分析法と呼ぶ。

例えば陸俊明はかつて下のような文を挙げたことがある：

他早早地炸了盘花生米。(彼は手早くピーナッツを揚げた。)

他喜滋滋地炸了盘花生米。(彼は嬉々としてピーナッツを揚げた。)

他脆脆地炸了盘花生米。(彼は歯ざわり良くピーナッツを揚げた。)

状態語“早早地(手早く)”、“喜滋滋地(嬉々として)”と“脆脆地(歯ざわり良く)”の語義指向は各々異なる、「手早く」は語義上動詞「揚げる」を指向し(手早く揚げ

る)「嬉々として」は語義上「揚げる」の主体「彼」を指向し(彼は嬉々としている)、「歯ざわり良く」は語義上「揚げる」の客体「ピーナッツ」を指向する(ピーナッツは歯ざわりがよい)。構文上における三つの語句は全て状態語を作り、述語動詞の限定に用いるが、語義の平面上においては各々の語句と異なる部分が連関を生じる。

ここで、まず語義指向による分析法の範囲を少し拡大してみる。語義指向は文中のある一成分、ある一語句に止まらず、内在して語句に現われないものをも指向できる。語義指向は外在するある一成分、ある一語句に止まらず、現われてこないある一成分や一語句を指向することも可能である。我々はこの未出現の成分や語句を“空位”と呼ぶ。我々はこの種の語義指向による分析法を用いて“NP₁的NP₂”句構成の解釈分岐現象を詳細に検討し、それによって解釈分岐の原因を求めたい。

一般に言えることは、“NP₁的NP₂”の仕組みは表面上名詞の形式を呈するに過ぎないが、実際には多くの語句がNP₁とNP₂の間に存在しており表出されない「隠れる動詞」は、ただ一つでもありうるし、多くも存在しうる。例えば、

(18) 他的书包(彼のかばん)

語義上から見ると、この句は「彼が所有するかばん」、「彼が買ったかばん」、「彼がデザインしたかばん」、「彼が作ったかばん」、「彼が手に入れたかばん」などの解釈ができ、「彼」と「かばん」との間に現われていない「所有する、買う、デザインする、作る、手に入れる……」などの動詞を包含する。これらの動詞は語義上からは全て「所有する」の意味であり、その語義上において動作の主体「彼」を指向し、意味上分岐する解釈は存在しない。

然るに、例(1)「大江の写真」はこれと異なる。この仕組みの中には、「大江」と「写真」の間に隠れている「所有する」の意味を指す一連の動詞以外にも、「撮影する」という動詞が隠れている。「撮影する」以上は、「誰が撮影する」と「誰を撮影する」という問題が生じる。「写真」は「撮影」の結果に過ぎず、「撮影する」人と「撮影される」人は共に「大江」が充当されて、解釈が分岐する。「撮影する」の語義指向が動作の主体となる場合、この構成は「大江が撮影した写真」となり、「撮影する」の語義指向が動作の対象となる場合、この構成は「大江を撮影した写真」となる。

続いて例(11)「肥満の専門家」を挙げる。「専門家」である以上は、おそらく「研究」が必要であるので、この構成の中には動詞「研究する」が隠れている。語義指向による分析法を用いると、我々は隠れた動詞「研究する」に二つの語義指向の存在を見て取れる：一つは「肥満」を指向し、「肥満」は研究の対象である。このように理解すると、この構成の意味は「肥満を研究する専門家」である。もう一つの語義指向は構成の中に現われてこない「空位」「ある領域」であり、この規定による句構成の意味は「ある研究をしている専門家は肥満だ」となり、この場合の「肥満」は「研究」と関係がなく、専門家の外形的な特徴をなしている。

例(12)「この村の医者」は上の例で言うところの角度とは若干相違がある。この構成

の中には少なくとも「住む」と「診る」という二つの動詞が隠れており、それは共に「この村」と関係があるが、語義指向から見ると、「この村」は二つの動詞「空位」を指向する：「住」を指向する場合、この構成は「この村に住む医者」となる；「診る」を指向する場合、この構成はまた「この村のために病気を診る医者」となる。語義指向は異なり、構成される意味も異なる。

例(15)「大学先生の恋人」の多義的な関係も語義指向を用いて説明が可能である。この構成の中には動詞「愛する」が隠れており、「愛する」の語義指向が「大学先生」となる場合、「大学先生」が「愛する」対象であり、構成される意味は「大学先生を愛する人」となる；「愛する」の語義指向が「空位」となる場合、「大学先生」は「恋人」と同一の対象を指し示すところとなり、構成される意味は「愛する何某は大学先生である」となる。

三.“ 那时总理的照片 ” の多義的な解釈

最後に我々も総合的な観点で下の句を見てみよう：

(19) 那时(的)总理的照片(その時の首相の写真)

この構成は多くの解釈があり、以下の四つの面から考慮しよう。

一つ目は、まず語義指向による分析法から着手して「首相の写真」の部分を見てみよう。前述したように、「首相の写真」の中には「所有する」と「撮影する」二つの動詞が隠れている。「所有する」の語義は当然「首相」を指向し、この構成の意味は「首相が所有する写真」となる。ここではこれらの「写真」が「首相」の「所有物」であることを強調するに過ぎない。「撮影する」の語義が動作の主体を指向する場合、「首相」は「撮影する」と共に「主述」関係を構成し、この構成はすなわち“ 总理拍摄的照片(首相が撮影した写真)”となる。「撮影する」の語義が動作の対象を指向する場合、「撮影する」は「首相」と共に「述目」関係を構成し、この構成は“ 拍摄总理的照片(首相の写真を撮影する)”となる。

二つ目は、「首相」を語義上の無標名詞として考察する。一般に、何某が「首相」であるか否かについて言う場合、もし「どの国」、「いつの時代」などの成分による限定がなければ意味はなく、奇妙に思える。例(20)を見てもらいたい：

(20) 那时的总理是周恩来。(その時の首相は周恩来だ。)

仮に、上の文の「その時」が「一九七〇年」を指すことにすると、それは「首相」を限定し、「その時の首相」とは「一九七〇年に首相の地位に身を置く人」を意味している。そこで、「その時の首相の写真」とは具体的に

那时(1970)的总理拥有的照片(その時(1970年)の首相が所有していた写真)

那时(1970年)的总理拍摄的照片(その時(1970年)の首相が撮影した写真)

拍摄那时(1970年)的总理的照片(その時(1970年)の首相を撮影した写真)
という三面の意味を包含しうる。

三つ目は、仮にアメリカ現大統領ブッシュが去年自分の農場において日本の小泉首相と
会ったことを思い出す時、“那时的总理(その時の首相)”と言う。ここでの「その時」
は「首相」の含意をまったく限定せず、「去年某月某日ブッシュの故郷の農場に到着した」
の含意を指し、世界中に何人もいる首相の中から一人を選別するために用いられる話法で
あるに過ぎない。これは「首相」を有標名詞として取り扱ったものであり、ここにおいて、
「その時の首相の写真」とは

那时,总理拥有的照片(その時、首相が所有していた写真)

那时,总理拍摄的照片(その時、首相が撮影した写真)

那时,拍摄总理的照片(その時、首相を撮影した写真)

の三種類に帰納する。

四つ目は、まず例(21)を見てもらいたい、

(21) 那时的总理爱恋着那个姑娘。(その時の首相はあの娘を恋慕していた。)

ここでは、「その時の」が何人もの「首相」から限定し、一人を選別する作用をまったく
備えておらず、それと同時に「その時」が示す具体的な年代と時間の中で、何某が首相の
地位にあったか否かということもまったく関係がない、それは単に現在の「首相」を過去
のある時期で強調しているに過ぎない。これは“那时的妻子刚刚出生(その時の妻は生ま
れて間もなかった)”、“那时的父亲还是小学生(その時の父はまだ小学生だった)”を“妻
子那时刚刚出生(妻はその時生まれて間もなかった)”、“父亲那时还是小学生(父はその
時まだ小学生だった)”と理解すべきであるのと同じように、“那时的总理爱恋着那个姑娘
(その時の首相はあの娘を恋慕していた)”は実際“总理那时爱恋着那个姑娘(首相はその
時あの娘を恋慕していた)”となり、これは「現在の首相」の視点に立って彼の過去のある
段階を叙述するものである。このような分析に従うと、我々は“那时(的)总理的照片
(その時の首相の写真)”を

总理那时拥有的照片(首相がその時所有していた写真)

总理那时拍摄的照片(首相がその時撮影した写真)

拍摄的总理那时的照片(首相のその時を撮影した写真)

に帰納できる。

以上我々は構文と語義の角度を通じて“NP₁的NP₂”という解釈が分かれる構文を分析し、
水面下に潜んだ文法関係を指摘し、各々が構成する成分間の語義の連関を探求し、解釈の
分かれる構文と語義の原因を掘り下げてきた。これは中国語の句構成についての研究であ
り、またその語義の研究であったとしても全て一定の意義がある。同時に、日本語の「NP₁

の NP₂」と非常に似ていることも明らかである。さらに、比較・分析・研究を通じて、単純に見える構成形態の中に実際は複雑な構文と語義の関係が潜むことを見出し、我々の注意を喚起する必要がある。

注釈

- 1 西山佑司氏 (1993) 『「NP₁ の NP₂」と “NP₂ of NP₁”』(『日本語語学』1993,Vol.12)

参考文献

- 邢福義 (1995) 『語法問題思索集』, 北京語言学院出版社。
- 邢福義 (1996) 『漢語語法学』, 東北師範大学出版社。
- 邵敬敏 (1998) 『句法結構中の語義研究』, 北京語言文化大学出版社。
- 石毓智 (2001) 『語法的形式和理据』, 江西教育出版社。
- 範曉 (1998) 『漢語的句子類型』, 書海出版社。
- 西山佑司 (1993) 『「NP₁ の NP₂」と “NP₂ of NP₁”』(『日本語語学』1993,Vol.12)
- 水野義道 (1993) 『日本語「の」と中国語“的”』(『日本語語学』1993,Vol.12)